受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「ＳＢＩ中小型成長株ファンド ジェイネクスト（年２回決算型）／愛称：jnextⅡ」は、2022年７月22日に第13期決算を行いました。

当ファンドは、中小型成長株・マザーファンド受益証券への投資を通じて、わが国の金融商品取引市場に上場する中小型株式に投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして積極的な運用を行いました。

ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

第13期末（2022年７月22日）	
基準価額	22,094円
純資産総額	7,855百万円
第13期	
騰落率	0.1％
分配金（税込み）合計	0円

（注１）騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。
（注２）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
（注３）当報告書における比率は、表示桁未満を四捨五入しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。
○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、右記ホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
○運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

＜運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法＞
右記ＵＲＬにアクセス⇒「ファンド情報」⇒「当該ファンド」を選択 ⇒「目論見書・定期レポート等」を選択 ⇒「運用報告書（全体版）」より該当の決算期を選択ください。

ＳＢＩ中小型成長株ファンド ジェイネクスト(年２回決算型) /愛称：jnextⅡ

追加型投信／国内／株式

交付運用報告書

第13期（決算日：2022年７月22日）

作成対象期間（2022年１月25日～2022年７月22日）

SBI Asset Management

ＳＢＩアセットマネジメント株式会社

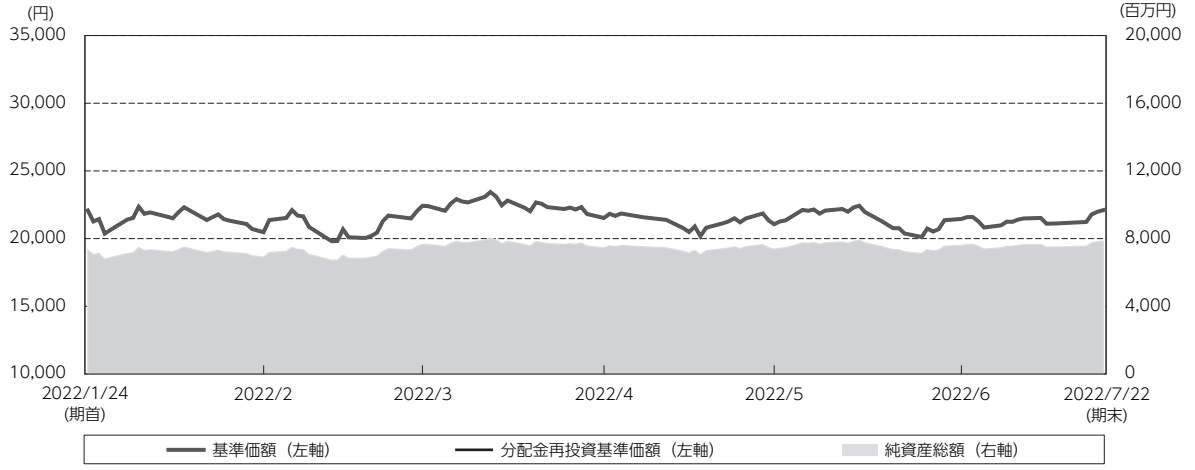
東京都港区六本木1-6-1
お問い合わせ先
電話番号 03-6229-0097
受付時間：営業日の9：00～17：00

ホームページから、ファンドの商品概要、レポート等をご覧いただけます。
http://www.sbiam.co.jp/

運用経過

基準価額等の推移

（2022年１月25日～2022年７月22日）



期　　首：22,075円
期　　末：22,094円（既払分配金（税込み）：0円）
騰 落 率：　　0.1％（分配金再投資ベース）

（注１）当ファンドは、現時点では何らかの理由（課題・困難）により割安な株価ではあるものの、将来への成長機会を持つ（＝企業家精神溢れる）革新的な高成長が期待される企業の株式に厳選投資するという特色を持つファンドであり、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用しておりません。
（注２）分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したとみなして計算したファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
（注３）ファンドの運用経過については、当ファンドのパフォーマンスを示したものであり、ファンドの購入価額により課税条件等が異なるため、お客様の損益の状況を示すものではありません。
（注４）分配金再投資基準価額は、期首（2022年１月24日）の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額は期首22,075円からスタートした後、FRB（米連邦準備制度理事会）の金融引き締め策への警戒感が高まったことから、当ファンドに組み入れているグロース・中小型株も軟調な展開を余儀なくされ、基準価格は３月８日に期中最安値となる19,807円まで下落しました。

しかしその後は、売られ過ぎの反動に加え、国内の行動規制が緩和されたことを受け、国内リオープニング銘柄が物色される展開となり、当ファンドに組み入れている旅行関連や中古車関連などの関連銘柄がけん引役となり、４月５日に期中最高値となる23,443円まで値を戻す場面も見られました。

しかし、インフレ高進や各国・地域中銀による金融引き締め策への警戒感および、それを受けた海外の景気後退リスクが幾度となく上値を抑える展開となり、当ファンドの基準価格は22,094円で当期を終えました。

１万口当たりの費用明細

(2022年１月25日～2022年７月22日)

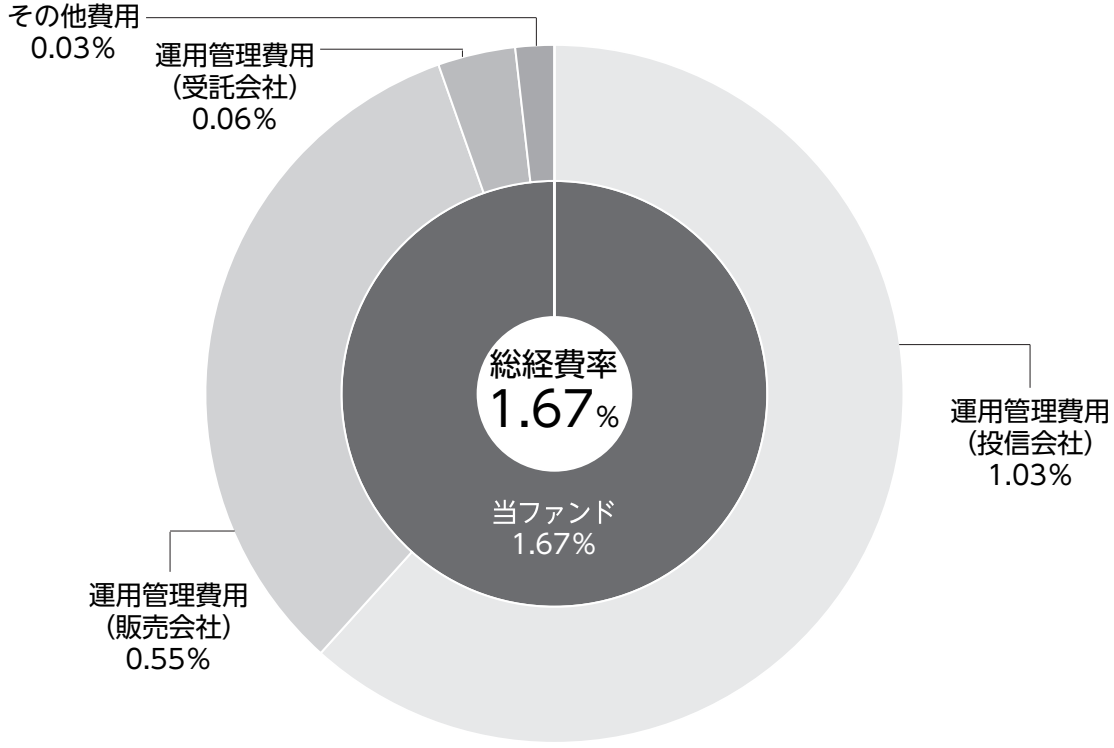
項目	当期 金額	当期 比率	項目の概要
	円	%	
(a) 信託報酬	175	0.804	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投信会社)	(111)	(0.507)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(59)	(0.270)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(6)	(0.027)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	10	0.046	(b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
(株式)	(10)	(0.046)	※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) その他費用	4	0.017	(c)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監査費用)	(1)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印刷)	(3)	(0.013)	開示資料等の作成・印刷費用等
(その他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他費用
合計	189	0.867	
期中の平均基準価額は、21,806円です。			

(注１) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
(注２) 消費税は報告日の税率を採用しています。
(注３) 項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
(注４) 売買委託手数料及びその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
(注５) 各比率は１万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

（参考情報）

○総経費率

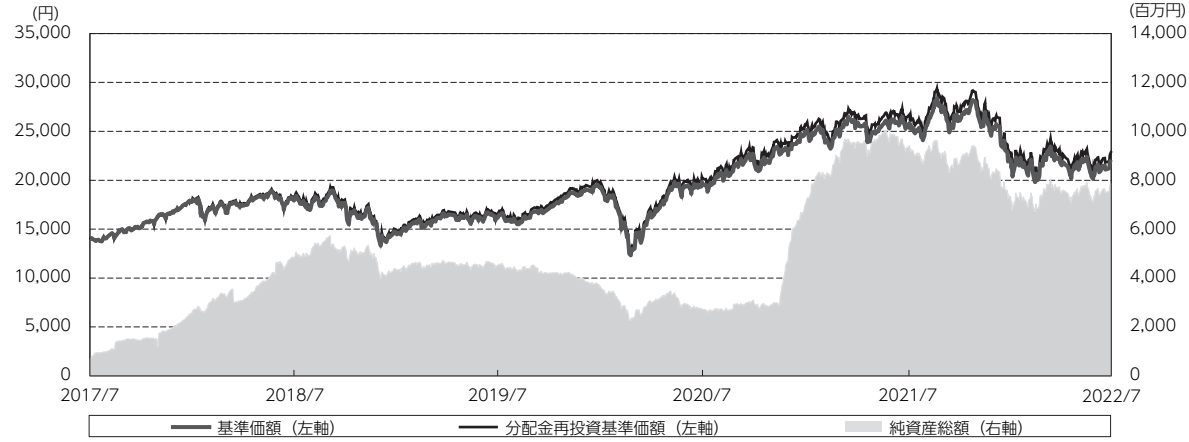
当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（１口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.67%です。**



（注１）上記費用は、１口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
（注２）各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。
（注３）各比率は、年率換算した値です。なお、四捨五入の関係により、合計が一致しない場合があります。
（注４）上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近５年間の基準価額等の推移

（2017年７月24日～2022年７月22日）



（注１）分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したとみなして計算したファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
（注２）ファンドの運用経過については、当ファンドのパフォーマンスを示したものであり、ファンドの購入価額により課税条件等が異なるため、お客様の損益の状況を示すものではありません。
（注３）分配金再投資基準価額は、2017年７月24日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

	2017年7月24日 決算日	2018年7月23日 決算日	2019年7月22日 決算日	2020年7月22日 決算日	2021年7月26日 決算日	2022年7月22日 決算日
基準価額　（円）	14,048	17,918	16,155	19,607	25,777	22,094
期間分配金合計（税込み）　（円）	－	320	70	130	125	0
分配金再投資基準価額騰落率　（%）	－	29.8	△9.4	22.2	32.1	△14.3
純資産総額　（百万円）	682	4,804	4,470	2,705	9,373	7,855

（注１）当ファンドは、現時点では何らかの理由（課題・困難）により割安な株価ではあるものの、将来への成長機会を持つ（＝企業家精神溢れる）革新的な高成長が期待される企業の株式に厳選投資するという特色を持つファンドであり、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用しておりません。
（注２）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
（注３）騰落率は１年前の決算応当日との比較です。

投資環境

（2022年１月25日～2022年７月22日）

当期の国内株式市場は、TOPIXで1,900pt近辺でスタートした後、年初からの大幅下落の反動や、日米企業の良好な決算発表などを受けて、２月中旬まで戻りを試す展開となりました。しかしその後、ロシアによるウクライナ侵攻と、それを受けた各国の制裁発動への警戒感から再び売りに押される展開となり３月中旬に1,750pt近辺まで下落しました。また、資源価格の高騰を受け、物価上昇が各国の景気を冷やすとの懸念が高まったことも投資家心理を冷やす要因となりました。

その後、TOPIXで2,000pt弱まで戻りを試す展開となりましたが、中国上海市で新型コロナ感染拡大抑制策として打ち出されたロックダウンの影響が日本株の上値を抑える展開となりました。更に、６月中旬頃からは、FRBの利上げ加速をはじめとした各国・地域中銀の金融引き締め策の積極化を受けて、物価を抑制するための金融引き締めがグローバル景気の悪化に繋がるとの見方が強まり、株価は上値を抑えられる展開となりました。日本株は海外主要株と比較してバリュエーション調整が先んじて進んでいたことから、相対的には下落幅は小さい動きとなりましたが、当期末のTOPIXは1,955.97ptで取引を終えました。

当ファンドのポートフォリオ

(2022年１月25日～2022年７月22日)

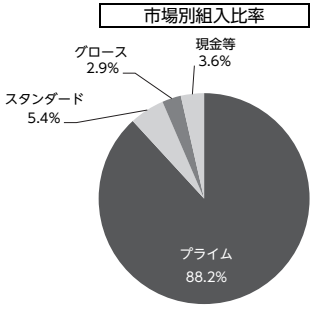
＜当ファンド＞

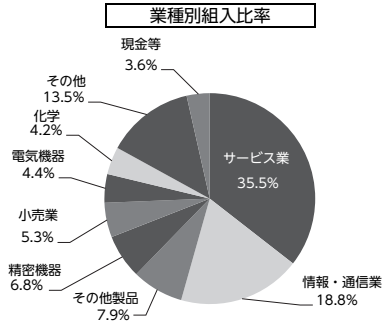
主要投資対象である中小型成長株・マザーファンド受益証券を高位に組入れて運用いたしました。

＜中小型成長株・マザーファンド＞

運用方針に基づき投資を行った銘柄は、成長の壁を経験しながらもこれを克服しようとすることで新たな成長のステージに入ろうとする革新的な高成長企業です。ボトムアップ調査を行った銘柄のうち、成長性・収益性・安全性・革新性・株価水準等を総合的に評価判断し、おおむね50銘柄を組入れ、逐次銘柄見直しを行いました。また、銘柄分散、時間分散を考慮し、１銘柄で最も組入比率の高いものでも３％程度としました。

なお、マザーファンドにおける株式の組入比率に関しては、おおむね95％以上の株式組入比率を維持しました。期末の株式組入比率は96.4％となっております。





※組入比率はマザーファンドの純資産総額比です。四捨五入の関係で合計が100％にならない場合があります。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2022年１月25日～2022年７月22日)

当ファンドは、現時点では何らかの理由（課題・困難）により割安な株価ではあるものの、将来への成長機会を持つ（＝企業家精神溢れる）革新的な高成長が期待される企業の株式に厳選投資するという特色を持つファンドであり、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用しておりません。

分配金

(2022年１月25日～2022年７月22日)

当期は、当ファンドの収益分配方針に基づき、収益分配可能額を算出し、市況動向や基準価額等を考慮した結果、当期の収益分配は行わないことといたしました。

なお、収益分配にあてなかった利益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

（単位：円、１万口当たり、税込み）

項　　目	第13期 2022年１月25日～ 2022年７月22日
当期分配金 (対基準価額比率)	－ －％
当期の収益	－
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	12,094

（注１）対基準価額比率は、当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。
（注２）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の見通しと運用方針

＜当ファンド＞

引き続き、主要投資対象である中小型成長株・マザーファンド受益証券を高位に組入れる方針で運用を行います。

＜中小型成長株・マザーファンド＞

引き続き、エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社の投資助言に基づき、革新的高成長が期待される企業の株式へ投資を行い信託財産の成長をめざします。

なお、投資助言を行っているエンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社では、以下のようにコメントをしています。

当期の株式市場は、新型コロナウイルス変異株の感染拡大懸念や米国の利上げ観測、ロシアによるウクライナ侵攻などを受けてリスク回避姿勢が広がり大幅に調整しました。とりわけ中小型株は、リスクオフの動きが強まる中で大型株に比してより大きく影響を受けました。ただ長い経験を通して確信しているのは、「ぶれることなく腰を据えて取り組むこと」が最も大切だということです。また、地道に調査を続けていると、実体と乖離して大きく調整した局面ほど、結果的には魅力的な投資機会となっていた、ということ実感しています。

その観点で現在のポートフォリオの状況を見てみますと、組入企業の業績は全般的に想定通りに推移しています。最近の面談調査でも、多くの経営者が自信を持ち、成長の手応えを感じていることが確認できています。実際、経営者が前向きになる兆候も出てきています。

例えば、資源高や通貨安などを背景に値上げのニュースが増えてきましたが、商製品・サービスの競争力が強い企業ほどしっかりと価格転嫁して利益率を高め、これを従業員に還元することで生産性がさらに高まる、という好循環に入ってきます。これは、永らく日本経済の大きな課題であったデフレからの脱却を示唆しており、縮小均衡から拡大再生産への転換点になるかもしれません。もちろん、値上げができるかどうかは競争力次第であり、今後は優勝劣敗が進んでいくことが想定されます。他方で、敢えて価格を変えないという判断をする企業もあります。競合他社と価格の差をつける絶好の機会と捉え、今まで切り崩せなかった顧客を開拓したり、市場シェアを奪うための戦略的な判断といえます。このように企業の選択は多種多様ですので、冷静に確認しながら見極めることが不可欠です。こうした作業を投資家の皆様に成り代わってしっかりとやり続けることこそが、中長期的なパフォーマンスにつながることと考えて、日々の活動に取り組んでまいります。

お知らせ

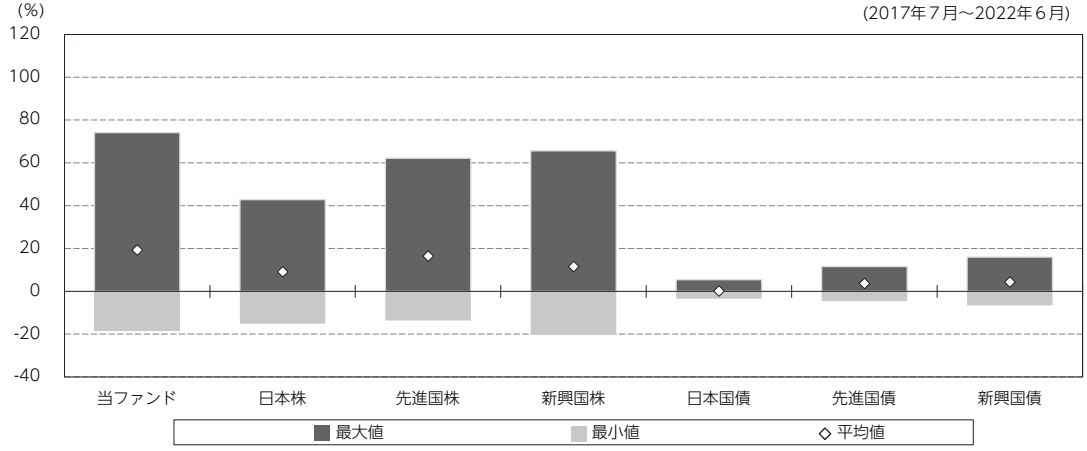
該当事項はありません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	原則として無期限（クローズド期間はありません）	
運用方針	中小型成長株・マザーファンド受益証券への投資を通じて、信託財産の中長期的な成長をめざして積極的な運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド（ベビーファンド）	中小型成長株・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、株式等に直接投資することもあります。
	マザーファンド	わが国の金融商品取引所上場株式のうち中小型株を主要投資対象とします。
運用方法	当ファンド（ベビーファンド）	主として、中小型成長株・マザーファンド受益証券に投資し、信託財産の積極的な成長をめざして運用を行います。 なお、運用にあたっては中小型成長株・マザーファンド受益証券の組入比率を原則として高位に維持します。
	マザーファンド	わが国証券取引所上場株式のうち中小型株を主要投資対象とします。 また、株式の投資に際しては、厳選した革新高成長企業の株式に分散投資します。 なお、外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	年２回（原則として１月と７月の各22日。ただし、休業日の場合は翌営業日。）決算を行い、原則として以下の方針に基づいて収益の分配を行います。配当等収益とマザーファンドの信託財産に属する配当等収益のうち信託財産に属するとみなした額と売買益（評価益を含みます。）との合計額から諸経費等を控除した金額の範囲とします。委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わないことがあります。収益分配にあてず信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	74.1	42.8	62.2	65.6	5.5	11.6	16.0
最小値	△ 18.4	△ 15.1	△ 13.6	△ 20.4	△ 3.5	△ 4.6	△ 6.6
平均値	19.2	9.1	16.4	11.6	0.1	3.6	4.3

(注1) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
(注2) 2017年7月から2022年6月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。
(注3) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。
(注4) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《代表的な各資産クラスの指数》
日 本 株…Morningstar 日本株式指数
先進国株…Morningstar 先進国株式指数（除く日本）
新興国株…Morningstar 新興国株式指数
日本国債…Morningstar 日本国債指数
先進国債…Morningstar グローバル国債指数（除く日本）
新興国債…Morningstar 新興国ソブリン債指数

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。各指数は、全て税引前利子・配当込み指数です。

*各指数についての説明は、最終ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

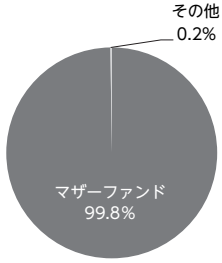
(2022年７月22日現在)

○組入上位ファンド

銘　柄　名	第13期末
	%
中小型成長株・マザーファンド	99.8
組入銘柄数	１銘柄

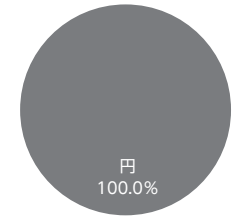
(注１) 組入比率は純資産総額に対する割合です。
(注２) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されています。

○資産別配分



○国別配分

○通貨別配分



(注１) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。
(注２) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

純資産等

項　目	第13期末
	2022年７月22日
純資産総額	7,855,385,318円
受益権総口数	3,555,362,656口
１万口当たり基準価額	22,094円

(注) 期中における追加設定元本額は501,931,370円、同解約元本額は259,893,069円です。

組入上位ファンドの概要

中小型成長株・マザーファンド

【基準価額の推移】
(2021年１月23日～2022年１月24日)

【１万口当たりの費用明細】
(2021年１月23日～2022年１月24日)

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a) 売買委託手数料	83	0.126
(株式)	(83)	(0.126)
合計	83	0.126
期中の平均基準価額は、66,310円です。		

(注) 上記項目の概要につきましては、Ｐ２をご参照ください。

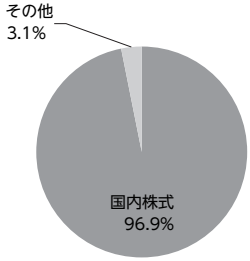
【組入上位10銘柄】

(2022年１月24日現在)

	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率(%)
					%
1	エスプール	サービス業	円	日本	3.4
2	ジャパンマテリアル	サービス業	円	日本	3.3
3	トランザクション	その他製品	円	日本	2.9
4	エムアップホールディングス	情報・通信業	円	日本	2.9
5	トリケミカル研究所	化学	円	日本	2.8
6	シグマクシス・ホールディングス	サービス業	円	日本	2.8
7	メック	化学	円	日本	2.8
8	トーカロ	金属製品	円	日本	2.8
9	前田工織	その他製品	円	日本	2.8
10	ＳＨＩＦＴ	情報・通信業	円	日本	2.8
組入銘柄数		55 銘柄			

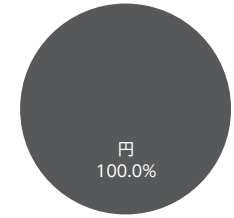
(注１) 比率は、純資産総額に対する割合です。
(注２) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。
(注３) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

【資産別配分】



【国別配分】

【通貨別配分】



(注１) 基準価額の推移、組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは2022年１月24日現在のものです。
(注２) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。
(注３) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

〈各指数の概要〉

日 本 株：Morningstar 日本株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本に上場する株式で構成されています。

先進国株：Morningstar 先進国株式指数（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本を除く世界の先進国に上場する株式で構成されています。

新興国株：Morningstar 新興国株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、世界の新興国に上場する株式で構成されています。

日本国債：Morningstar 日本国債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本の国債で構成されています。

先進国債：Morningstar グローバル国債指数（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本を除く主要先進国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。

新興国債：Morningstar 新興国ソブリン債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、エマージング諸国の政府や政府系機関により発行された米ドル建て債券で構成されています。

〈重要事項〉

本ファンドは、Morningstar, Inc.、又はイボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社を含むMorningstar, Inc.が支配する会社（これらの法人全てを総称して「Morningstarグループ」と言います）が組成、推薦、販売または宣伝するものではありません。Morningstarグループは、投資信託への一般的な投資の当否、特に本ファンドに投資することの当否、または本ファンドが投資対象とする市場の一般的な騰落率と連動するMorningstarのインデックス（以下「Morningstarインデックス」と言います）の能力について、本ファンドの受益者又は公衆に対し、明示又は黙示を問わず、いかなる表明保証も行いません。本ファンドとの関連においては、委託会社とMorningstarグループとの唯一の関係は、Morningstarのサービスマーク及びサービス名並びに特定のMorningstarインデックスの使用の許諾であり、Morningstarインデックスは、Morningstarグループが委託会社又は本ファンドとは無関係に判断、構成、算定しています。Morningstarグループは、Morningstarインデックスの判断、構成又は算定を行うにあたり、委託会社又は本ファンドの受益者のニーズを考慮する義務を負いません。Morningstarグループは、本ファンドの基準価額及び設定金額あるいは本ファンドの設定あるいは販売の時期の決定、または本ファンドの解約時の基準価額算出式の決定あるいは計算について責任を負わず、また関与しておりません。Morningstarグループは、本ファンドの運営管理、マーケティング又は売買取引に関連していかなる義務も責任も負いません。

Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータの正確性及び／又は完全性を保証せず、また、Morningstarグループは、その誤謬、脱漏、中断についていかなる責任も負いません。Morningstarグループは、委託会社、本ファンドの受益者又はユーザー、またはその他の人又は法人が、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータを使用して得る結果について、明示又は黙示を問わず、いかなる保証も行いません。Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータについて明示又は黙示の保証を行わず、また商品性あるいは特定目的又は使用への適合性に関する一切の保証を明確に否認します。上記のいずれも制限することなく、いかなる場合であれ、Morningstarグループは、特別損害、懲罰的損害、間接損害または結果損害（逸失利益を含む）について、例えこれらの損害の可能性を告知されていたとしても責任を負いません。